

12 . 最初の蝶 (タガログ)

昔々、遠くの小さな村に、母と三人の娘たちがいました。彼女たちの父は、数年前に亡くなっていました。

母は素朴で、良く働く女性で、何も望まず、ただ、娘たちには、一番よいものを与えたいと思っていました。彼女は、この世の何よりも、娘たちを愛していました。しかし、夫の支援なしに、家庭を養うので、母は三人の娘の食事や衣服の用意をするために、特別、熱心に働くことを要求されていました。彼女は家を掃除し、食事の用意をし、服を洗い、鶏を飼い、寝る時間はほとんどありませんでした。

三人の娘はみんな美しく育ちました。ドローズという長女は背が高く、女性らしい娘。ロサールは次女で、ほっそりして、天使のような顔をした上品な女性。しかし、末娘アローラは、たいへん魅力的で、美しい茶色の眼と長く黒い絹のような髪をしていました。

娘は三人とも、美しく育ちましたが、献身的な母によって、家のまわりのことで働くのを禁じられていて、甘やかされて育ちました。たくさん仕事をしたら、疲れてしまって、彼女らの実際の歳よりも老けて見えるから、と思ったからです。

だから、三人の娘は虚栄心が強く、利己的で、たいへん怠惰で、彼女らの母を召し使いのように扱い、もっと働くように、要求していました。

しかし、母は不平を言いませんでした。彼女は、娘のひとりが、裕福な王子か貴公子と結婚する日のために生きていました。そうすると、彼女らの貧しい生活は終わるのです。

しかし、どの娘にも、王子に会って彼女らの貧しさを一掃するチャンスは、今までほとんどありませんでした。第一に、彼女らは遠いところに住んでいるので、そこには貴公子も王子も、あえて来るようなことはありませんでした。そして、彼女らは貧しいので、近くの貴族たちと交わる機会も、となり町の社交パーティーに参加する機会もなかったのです。

数年待って、母と娘たちは、貴族と出会い、貧しい生活を終わらせる夢をあきらめました。

働くのが困難になったので、弱い母は、三人に娘に、家の周りの仕事をして、彼女を手伝わせることに決めました。

しかし、娘たちがそれまでの怠惰な生き方を変えることを期待するには、遅すぎました。いつもドローズは、食事の準備をする仕事でしたが、「料理の作り方を教えてもらったことがないので、」と断りますから、料理の用意ができません。ロサールは、洗濯ですが、服の洗い方を習っていないから、と断り、洗濯はできません。そしてアローラは、鶏の世話ですが、鶏の餌のやり方を習っていないから、と断り、鶏は世話できません。

退屈で活気のない生活と母の無力なものにした育て方にうんざりして、三人の娘は、母を捨てて家を出て、他の町で名声と幸福を見つけようと決心しました。

三人の娘が母に、彼女を残して出てゆくことを告げた時、母はものが言えませんでした。彼女は部屋の隅で座り込みました。そして、抑えることができず、泣きました。一方三人の娘は自分たちのものを荷造りし、出る用意をしました。

家の外の庭の中で、薄い羽と面白い耳をした、小さな妖精が、母が泣くのを聞いて、家に調べに入ってきました。妖精がそこを見ると、三人の娘が、母を捨てて家を出てゆくところでした。怒った妖精は、立ち昇る煙の中で、彼女らの前に現れ、歩いている娘たちをびっくりさせました。妖精は彼女らを呪い、言いました。「止まれ！どこに行こうとしているのか？お前たちには感謝の気持ちはないのか？お前たちの貧しい母は、全生活をお前たちに与えた。確かめてみる。お前たちはきれいな服を着、腹の中は満腹だ。彼女は、お前たちに家の周りの仕事をして、土を手にするのを許さなかった。ところが、これが彼女の愛や親切に対するお返しか？私はお前たちが常に彼女とこの家の近くに留まるようにする。」

目でウィンクすると、小さな妖精の埃を散らすことによって、妖精は、呪文を三人の娘にかけて、

瞬く間に、彼女らは、長くやせた体と、大きなはばたく羽の小さな虫に変わりました。しかし、妖精は、三匹の不思議な虫が、異なった色と模様の羽を持ち、彼女らの母が見分けられるようにしました。そしてこれらの羽の色は、本当に美しいものです。母に、彼女の娘たちが、一度はいかに美しかったかを思い起こさせました。ですから、もし、あなたが、上品に、優雅にその羽をはばたかせている、美しい蝶を見たなら、それは女性らしいドローズかもしれません。もし、あなたが、ひとつだけ特別な花の周りを踊っているもうひとつの美しい蝶を見たなら、それはロサールかもしれません。そして、休みなく花から花へ飛び回っているなら、それはおそらく魅惑的なアローラでしょう。